



三月号

今月の十人＋1

きんかく

ただのたなか

鈴木智花

全美

森屋たもん

ケムニマキコ

武井窓花

彩結ゆあ

深山睦美

鳥さんの瞼

吉田岬

発行人 吉田岬

二〇二五年三月十日 発行

名前のないポストが横に並びたるそれでもドアの向こうには人
 ラッキーなことは何も無かったが鼻唄くらいは許して欲しい
 良い感じの路地裏にいた猫たちが実家の猫と同じ伸び方
 なんとなく気になっていた古着屋の姿見に映る店員が怖い
 アド街で知ったことをさも自分で見つけたかのような職場で話し
 満員の電車に乗り立つその視線シスターのごと伸びた背筋で
 コンビニの柔らかいめのおにぎりに救われる夜もあったりするの
 そういえば間取りが前と違ってて泣きたい時はどこで泣こうか
 三回も乗れば満員電車にも慣れるものだと伝える人無く
 自分より少し背の高い窓の向こうスカイツリーの頭が見えて

どの道を踏んでも爆発しない国で立ち止まることは悪なのでした
 反戦の立て看板になるために木立は鳥を逃がして死んだ
 レベッタの安全装置を下ろすかもしれない指で 撮る 花 息吹
 難解な問題文を読み解いて ほどいて どいて 孤独流して
 まだ誰も知らない鳥にイノリって名前を付けてみようと思う
 火花 光のように君は泣く嬉し泣きだと嘯きながら
 古本を眺める午後に春一番 咲かないつぼみのまま全句集
 清潔な心で触れてくれないと傷に障って痛むんですよ
 水かきがない生き物であることの不自由 肺が春につかえて
 裂傷をゆっくり塞ぐようにしてキスは祈りと同義語になる

芝犬の朝のように健やかに過ごしてみたいと思う朝など
 地下茎の届く範囲が縄張りで意外と遠くまで這われてる
 赤ちゃんは泣くのが仕事というけれどそんな仕事に就職したい
 やれって言われたわけではないのにいつのまにかやつてるゴミ捨て
 いまさら嫌だと言いつらい社会になってるのは私のせいかもしれず
 ベランダから富士山は見え ず お隣さんのベランダからは見える
 道端で着替える工事現場の警備員「地球がロッカールーム」
 針金を怖がらないで引き抜いた先の焦点をぼやかして
 似た扉ばかりマンモス団地では僕ら惑わせるための方舟
 嫌いにはなれないなんて嘘ばかり朝の味噌汁少し塩っぱい

熾天使よわれは泣きたし眠りたし熾火のごとき永遠が欲し
 受胎するがごとく宿りし感情に文字をあてがひまに歌ひぬ
 天秤と剣(つるぎ)わが心にあれど正しく使へぬ 悔ひはあらねど
 なにゆゑかわれもたれかを癒したし思ひ上がりと思ふがしかし
 魅かるるはアレクサンドル・カバネルの墮天使の黒くうつろひし羽

手のひらを組み合わせれば最小の棺と思う祈りはいつも
 気管支の枝ふるふると来年の春にやりたいことを話した
 目の奥に悲しい鹿の群れを見る傷に薄らと雪の積もった
 「花束を手向けるように泣かないで、私は君の映画じゃないよ」
 点滴と雪の速度が重なって離れるまでの息の止め方
 泳ぐみたいな手の振り方だ体内を白い星座の保育器にして
 神様の似姿として僕たちの握れば骨の浮き出る拳
 ふりだしに戻ることもなき双六と知っていたと知っていたとして
 (銃口だ、あれは銃口) 花開く 私もそこをくぐった種だ
 かむろ菊 渡せなかったどの花も燃えてしまえば温かな灰

「入院はひさしぶりっす」と何人かに言った寝たまま顔だけ向けて
 検査するための入院をしている限られた寿命を一部使って
 五本指ソックスを履くラスボスの前にやくそう買ひ足すように
 院内で履くサンダルを持ってきてもらおう ビーサンが出てきて笑う
 人生で食べたどのパンとも違う病院食の独特なパン
 独り言ではないはずだカーテンの中でAIに「怖いよ」と言う
 「外は雨らしいよ」の「らしいよ」が取れることが嬉しい外泊の日は
 病院の窓は特別な窓だから近づきすぎないようにしました

ふぞろいの羽を纏って厚底の靴で歩ける私は居場所
 たいしたことあるよね(桜にアラムを)わからない奴のほうがダサイよ
 いつからかくつしたに穴あかなくて 大丈夫って言うてくたさい
 ポケットを叩けば増えるビスケット洗濯大変だからやめてね
 公園のベンチで横になるだけでへんな人って思うほうがへん
 みどりいろのじゃがいも食べちゃだめだって知ることないまま死ぬとこだった
 たまに降る雨にうんざりできるほど偉くなりたくない 春 耳鳴り
 水滴は付度しない弾いてよしたたたたる涙拭いてよ
 いたとしてもいないとしても変わらずに天気予報は明日も六割
 優しさで人を救えることなんてないよあなたに夕陽をあげたい

フライミートウザムーン、夜風より赦せ赦せとさとされている
 陽は長くなって山の端にかかる雪雲のしずかな桃色よ
 街頭が照らす真下に驚いた狐が一瞬止まって去った
 隠しようのない事実だけテーブルに載せてレース越しを見ていた
 こんなにも生きている人帰途につく人ほんとうは泣いている人
 よこしまな思いがよぎるその度に飲みくだす可愛いラムネ菓子
 車椅子押しましようかやめておきましようか私はとてもとても弱い
 シベリアの暖炉のそばに乾かされるブーツはきつと大きいでしょう
 みかんそんなに食べたなら指の先から黄色いインコになれるよ
 電線がもうすぐ見えなくなりそうでこうして日々は溶けてゆきます

テッテレーテッテレーテッテレッテレー リズミカルに殴ったたら生き返ったわ
 光らない電球振ればたまに点くどーすれば生きたくなんだろう
 笑ったらすこし心が生き返ることを信じて顔を動かす
 予言など信じなければ子のおしめ替えるサトウルヌスもあったかも
 大丈夫なんて言葉が本当に大丈夫だったことはねーけど
 どーしたら社交辞令じゃないことを伝えられっか考えて打つ
 大好きは遠隔心臓マッサージ動かされたし仕方なく生きる
 とりあえずあたしと一度も会わんまま勝手にいなくなったりすんな
 生き急ぐ人たちの群れに一匹の生き遅れとしてレーン歩く
 パビコとか分けてみん？アラサーだけで。約束をひとつずつ積み上げて

X account

きんかく @kingkaku_tanka_
 ただのたなか @Shironopa_ka_
 鈴木智花 @suzukitomoka106
 全美 @ZENMIN15
 森屋たもん @monsontanka
 ケムニマキコ @qeiV97pW0x5342
 武井窓花 @tanka_madoka
 彩結ゆあ @iromusubi_yua
 深山睦美 @57577_77575
 鳥さんの臉 @withoutSSRI
 吉田岬 @tankaofmisaki



恋人と友達の区別がつかない（自殺と他殺くらい違うよ）
 （削除されたアカウントによるポストです）自殺した芋 じさつまいも
 いま天気予報で今日の自殺者はゼロだと言ってくれた気がする
 自販機のくじに外れただけなのに死にたいような音楽が鳴る
 こんなんになった旧ツイッターに俺の死にたさの何がわかるってんだ〜い
 「スイカ割り 失敗」というテロップが乗る映像がスイカでよかった
 飛び込んだその瞬間は見えるかなきさらぎ駅の鉄道むすめ
 独りで死ねと言ったあなたがいつの日か後悔しないように祈ろう
 心臓の鼓動が速くなるたびに生きる速度がゆっくりになる
 「死ぬべし」の無い安全なおみくじを引けばよかった（そんなの無いが）

天国にこぼれる

鳥さんの臉

ぬいぐるみ用の地獄はないからね ベロアにしみるアイスクリーム
 こわれてるのよって祖母は雨傘をてっぽう百合のようにかかえて
 鳥型のビスケット歯にあてながら 絶滅をするならいつせいに
 人ばっか寿命がながくて心臓に一匹分のやさしいへこみ
 折りたたみ傘を畳めば花柄も仕舞われてゆく纏足のよう